令和７年度

看護小規模多機能型居宅介護
はぴねす広場

運営推進会議における評価　公表用

別紙３－３

〈 運営推進会議における評価_様式例 〉 ※公表用【事業所概要】

法人名	ハート株式会社	事業所名	はぴねす広場
所在地	（〒973 － 8409 ） いわき市内郷御台境町六反田 78-1		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

当事業所は看護小規模多機能型居宅介護として、医療依存度の高い利用者様の受け入れを積極的に行っています。看護と介護が連携し、住み慣れた地域で安心して生活を継続できるよう支援しています。高速道路のインターチェンジから近く、遠方からのご利用にも便利な立地であり、閑静な住宅地の中に位置しています。周囲には山々が広がり、四季折々の自然の移り変わりを感じられる落ち着いた環境です。 理念として「はぴねす広場の私たちは優しさや思いやりの『心』と『笑顔』で接します。」を掲げ、利用者様一人ひとりが今日を楽しく生き、希望を明日へとつなげられるよう支援することを大切にしていますまた、ウッドデッキ前には河津桜や八重桜、花桃、モッコウバラなどが植えられており、季節の花々を楽しめる、心安らぐ環境づくりにも力を入れています。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2025 年 11 月 26 日	従業者等自己評価 実施人数	（ 12 ）人 ※管理者を含む

【自己評価の実施概要】

実施日	西暦 2026 年 1 月 30 日	出席人数（合計）	（ 6 ）人 ※自事業所職員を含む
出席者（内訳）	■自事業所職員（ 5 人） □市町村職員（ 人） □地域包括支援センター職員（ 1 人） □地域住民の代表者（ 人） □利用者（ 人） □利用者の家族（ 人） □知見を有する者（ 人） □その他（ 人）		

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目		前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価
Ⅰ．事業運営の評価 （評価項目 1～10）e		・災害訓練時は日中帯・夜間帯の想定を設け計画・訓練を行う。消火器設置場所・避難経路確認・避難場所までの通路確保適時確認・点検行う ・BCP年間計画に伴い訓練後必要物品の検討し見直し行う（消費期限・在庫数確認補充） ・感染症マニュアル対策の見直し行う	・10月10回消防署立ち合いのもと実施した参加スタッフ全員で消火訓練実施おこなった ・非常災害時緊急連絡網作成しラインにて連絡訓練実施している ・災害時必需品倉庫の在庫数確認、補充実施 ・感染症マニュアル見直し、再度非常事態に備え訓練実施している	・夜間想定の避難訓練未実施のため今後訓練実施していく ・連絡網の変更あれば逐次連絡訓練行い災害時対応できるようにする ・感染症・災害時のマニュアルを定期的に見直し行う（3か月に1回）
Ⅱ．サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 評価項目 11～27）	・多職種連携を密に利用者様・家族様の思い要望を聞き毎回確認している ・全職員が情報共有できるよう体制の構築をはかる	・他職種共同で利用者様、家族様の情報や変化、リスクを踏まえ申し送りやミーティング等で情報を共有している	・看護師中心に朝夕の申し送りで利用者様の状態変化を報告している。 ・申送りノートの活用、伝達できない職員には個別対応し情報共有を図る

	2. 多機関・多職種との連携 評価項目 28～31)	医療との連携を図るため利用者様の状態報告し随時カンファレンス行う	利用者様の状態変化あれば看護師より主治医に報告し指示をもらい情報を共有している	・退院時カンファレンスや看護サマリーをもとに情報共有している。変化があればその都度報告し記録に残している
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画（評価項目 32～41)	看護小規模多機能型居宅介護事業所としての役割を理解し医療ニーズの高い受け入れ態勢の維持 ・感染状況を確認しながら看護小規模多機能型居宅介護事業所を理解していただけるよう地域活動に参加する	・医療ニーズの高い利用者様が安心して生活ができるよう医療、看護師、ケアマネージャー・介護スタッフ間の情報共有している ・運営推進会議を実施している ・季節ごとに新聞を作成し地区包括センター、区長、民生委員に配布している	・地区包括センター、区長、民生委員を招いて実施している ・
Ⅲ. 結果評価 （評価項目 42～44)		利用様の予後・予測への考えを共有することでリスクを想定、その方の望む暮らし方に沿えるよう全職員がサービスに努める	利用者様の様子を家族様に随時伝えている。全職員勉強会を設け定期的に看多機の役割を理解して質の高いサービスに努める	定期的に家族様に体調変化や近況を報告している。 ・家族様からの意見や要望の確認を行っている

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目		評価結果	改善計画
Ⅰ．事業運営の評価 （評価項目 1～10）		・年に 2回災害訓練を消防署立ち会いの計画を立て、その内 1回は消防署立ち合い消火器使用し消火訓練実施した。 ・ BCP 年間予定を立て、計画的に訓練を行い有事に備えた。現在に備品の確認（消費期限・在庫数等） ・今後ほかの感染症対策時のマニュアル作成	・夜間想定時の訓練実施（利用者様の搬送方法、避難経路の確認） ・ BCP 訓練継続して実施（備品・在庫数の確認・補充・交換等） ・感染時、災害時の訓練実施しマニュアル点検する
Ⅱ．サービス提供等の評価	1．利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 評価項目 11～27）	・朝・夕の申し送りで変化があれば報告し記録に残している。サービスの提供を見直し行う カンファレンスを行い情報提供している	・看護師・ケアマネージャー・介護士を含めてカンファレンスを行い利用者様の QOL 向上や維持につなげていくよう取り組む
	2．多機関・多職種との連携 評価項目 28～31）	医療ニーズの高い利用者様を支えるため主治医・看護師・薬剤師・介護士との連携をとり情報を共有している	・利用者様が安心して生活ができるよう関係機関との連携をとり全職員が役割の理解を深める
	3．誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 評価項目 32～41）	運営推進会議の開催ができ地域包括支援センター・区長・民生委員との連携地域の困りごと、避難場所の再確認ができた	・看護小規模多機能型居宅介護事業所としての役割を理解し医療ニーズの高い利用者様を受け入れ体制の維持 ・地域の方に看護小規模多機能型居宅介護事業を理解していただけるよう地域活動に参加する
Ⅲ．結果評価 （評価項目 42～44）		・看護小規模多機能型居宅介護事業所として 24 時間連絡体制ができ全職員が知識・技術の向上に努めている。本人・家族の思い、意向に沿った対応を行う事で家族の安心・満足感につなげられた	・主治医との連携が確立し連携できているまた状況によりサービスの変更を行い 24 時間看護師による連絡体制が確立し安心して療養生活ができる

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表［事業所自己評価・運営推進会議における評価］

番号	評価項目	事業所自己評価 よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・評価にあたっての補足
Ⅰ	事業運営の評価　［適切な事業運営］						
（1）	理念等の明確化						
①	看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践						
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている。	7	5			主治医や家族はじめ関係者との連携が十分図られ、利用者の望む生活実現・維持につながっていると考えられる。	✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
		［具体的な状況・取組内容］ ・医療ニーズの高い利用者様を受け入れており見取りの利用者様が多くいる ・生活機能としてレクリエーション等行い利用者様が持っている機能を維持できるようにしている ・ご家族様の負担軽減負担にも貢献していく					
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している	5	6	1		事業所内での情報共有や理念等理解がきちんとなされていると考えられる。	✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」 ✓
		［具体的な状況・取組内容］ ・看多機サービスの利用の特徴を把握し、その人らしい生き方の実現を行っている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
（2） 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している	3	6	4		今後も現状の取組継続でよいと考える。	✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」
		［具体的な状況・取組内容］ ・社内研修の年間計画作成し実施している。個別の育成計画は実施していない為次年度は計画的に行っていく予定。 ・資格の受験時期など見据えて目標にしている					
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している	5	4	3		現状の取組継続し、現場での実践状況を随時確認していく必要があると考える。	✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します
		［具体的な状況・取組内容］ ・リモート研修や外部研修に参加し内容を報告している ・またミーティングを利用し研修内容を発表したりしている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
②	介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保						
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている	7	5			今後も現状の取組継続し、職員間の相互理解を深めていって頂きたい。	✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます
		［具体的な状況・取組内容］ ・看護師、ケアマネジャー、介護士等申し送りやカンファレンスを行い情報共有している					
（3）	組織体制の構築						
①	運営推進会議で得られた意見等の反映						
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている	5	5	7		運営推進会議について地域包括支援センターや地域住民・民生委員だけではなく、他事業所関係者等の出席を検討して頂きたい。他事業所等からの新たな視点での助言や多面的な意見等を受け止め日々の業務に反映させることで、サービスの質の向上につながると考える。	✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します
		［具体的な状況・取組内容］ ・議事録を回覧、掲示している ・会議で得られた要望、助言等あった場合には議事録を回覧したり、業務ミーティングなどにて全員へ報告している					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている	5	6	1		現状の取組継続でよいと考える。	✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します ✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます
		［具体的な状況・取組内容］ ・週間予定表にてその日の役割分担が行われている。状況に応じ随時変更し協力体制を整えている ・急な勤務変更時にもお互いに協力体制ができている					
（4） 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている	5	6	1		現状の取組継続でよいと考える。	✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します
		［具体的な状況・取組内容］ ・ミーティング時や朝夕の申し送り、申送りノートを活用し情報を共有している ・必要があればカンファレンス等で話し合い周知徹底している					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
（5） 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている	4	7	1		現状の取組継続でよいと考える。	✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます
		［具体的な状況・取組内容］ ・業務マニュアルにて個人情報に関する規定や感染医療事故の予防と発生時の対応が周知されている ヒヤリハット・インシデントが発生した場合にはカンファレンスを開催し各分析により再発防止努めている					
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対 ○ 応方針が共有されている	5	5	2		現状の取組継続でよいと考える。	✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます
		［具体的な状況・取組内容］ ・利用者様の連絡先（緊急連絡先）のリストや職員の連絡網等の作成がされており安否確認の訓練や防災訓練を行っている ・ BCP 訓練等実施し更新している ・防災用品の準備や不足物の点検、非常用食品の補充確認					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
Ⅱ　サービス提供等の評価							
1．利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
（1）　利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている	3	8	1		現状の取組継続でよいと考える。	✓ 「家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等を含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります
		［具体的な状況・取組内容］ ・介護支援専門員がご本人や家族様等の体調不良など緊急時でも対応できるようサービスを行っている					
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている	5	6	1		現状の取組継続でよいと考える。	✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます
		［具体的な状況・取組内容］ ・介護支援専門員が各計画書作成にあたり、多職種間でのカンファレンスやモニタリングで得た情報を下に良質なケアプランが作成されるよう情報共有している					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている	4	7	1		現状の取組継続でよいと考える。	✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます
		［具体的な状況・取組内容］ ・ケアプランや居宅介護計画には利用者様・ご家族様の意向を含めた計画作成を行っている					
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている	4	6	2		現状の取組継続でよいと考える。	✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます
		［具体的な状況・取組内容 ・利用者様の残存能力の維持、それに伴う自立支援に向けて計画・作成を行っている					
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている	5	6	1		現状の取組継続でよいと考える。	✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予
		［具体的な状況・取組内容］ ・朝夕の申し送り時各利用者の状況での予後予測、リスク管理等についてカンファレンスを行い統一したケアにあたっている					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
							後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です
（2） 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている	3	8	1		現状の取組継続でよいと考える。	✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します
		［具体的な状況・取組内容］ ・利用者さまの日常の様子を記録にまとめ変化が生じている場合は、迅速な対応対策等が計画へ反映され各職員間で周知徹底されている					
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している	4	7	1		引き続き、看護小規模の強みである通い・泊まり・訪問・看護の一体的な支援が達成できる計画立案や利用提案を丁寧に行っていくべきと考える。	✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します ✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です
		［具体的な状況・取組内容］ ・職員が利用者様宅への訪問や送迎時に家族とコミュニケーションを図り生活状況を把握するように努めている					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている	6	6			現状の取組継続でよいと考える。	✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します
		・利用者様の病状変化あれば看護師へ報告し医療につなげ主治医より指示をいただている ・各関係機関へ「照会」と等して報告したり必要時には担当者会議を開催している					
（3）介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている	5	7			現状の取組継続でよいと考える。	✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です ✓
		［具体的な状況・取組内容］ ・役割分担がされ専門性をもって対応している ・日々の状態を観察し気づきがあれば情報を伝え早期発見、早期受診に繋げている					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている	6	6			現状の取組継続でよいと考える。	✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します
		［具体的な状況・取組内容］ ・ミーティング時や日々の申し送り・カンファレンスを通して意見を出し合い、対応策の検討が行われている 会議時不在の職員へは「申し送りノート」の活用を実施し周知徹底を図っている					
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている	6	6			現状の取組継続でよいと考える。	✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の１つとして期待されます
		［具体的な状況・取組内容］ ・病状の予測など利用者全員の情報共有できている ・看護職の専門的視点からアドバイスが行われている 朝夕の申し送り時看護師からの体調変化や主治医からの指示、病状の予後予測、処置（介護員ができる範囲）等伝えている					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
（4）利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	4	7	1		現状の取組継続でよいと考える。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・各サービスについての問い合わせ時や利用開始にあたって管理者、介護支援専門員等が家族様に丁寧に説明している					
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	3	7	2		現状の取組継続でよいと考える。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・介護支援専門員が主治医の指示書をもとに計画作成に盛り込み、分かりやすく説明を行い理解を得ている					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	5	7			現状の取組継続でよいと考える。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・看護師がご家族へ医療機器の取り扱い方法やケアについて説明している					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 重度化した場合や終末期における 対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している	7	5			現状の取組継続でよいと考える。	✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・「利用者様の意向」を第一に、家族の要望や意向等の確認を行いサービスの提供に反映している					
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている	3	7	2		現状の取組継続でよいと考える。	✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・看護師や介護支援専門員が在宅生活で今後起こるリスクを想定し相談、共有をしている（家族や利用者または各職員）					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している	5	7			現状の取組継続でよいと考える。	✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
		［具体的な状況・取組内容］ ・ACPについて主治医から家族へ説明し同意を頂いている ・終末期の過程・状況など主治医より家族へ説明を行っている。 ・各記録に残している					
2．多機関・多職種との連携							
（1） 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している	5	7			現状の取組継続でよいと考える。	✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます
		［具体的な状況・取組内容］ ・退院時のカンファレンスにて得た情報を介護計画に盛り込み在宅生活が不安なく移行できるよう支援する。 数日「泊り」サービスを利用し生活リズムを整えて在宅復帰を支援している					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている	8	4			現状の取組継続でよいと考える。	✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です
		［具体的な状況・取組内容］ ・急変が予測される利用者様について対応方針等看護師、介護支援専門員が中心に主治医との連携を図っている					
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている	6	6			現状の取組継続でよいと考える。	✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します
		［具体的な状況・取組内容］ ・「24 時間緊急連絡体制」が整備されている ・急変時でもオンコール体制をとっており看護師、主治医へ連絡ができ即座な対応が可能である					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
（2） 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている	4	5	3		現状の取組継続でよいと考える。	✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です
		［具体的な状況・取組内容］ ・２カ月に１度実施している。運営状況の報告、開催を行っている					